

International Art Exchange

国際芸術交流プロジェクト： ラハティ応用科学大学における交流展2019

富山大学芸術文化学系講師 今淵 純子

1. ラハティ応用科学大学との交流

ラハティ応用科学大学との友好協定の歴史は、平成9（1997）年から始まる。協定を結んだ時点では、高岡短期大学とラハティポリテクニクという教育組織であったが、相互に教育組織を改革しながら、交換留学制度の実施とともに、学生作品の相互交流展を平成14（2002）年から継続している。

ラハティ応用科学大学は、富山大学と同様に学際的な高等教育機関で、フィンランドの首都ヘルシンキから北に100kmに位置している。5,000人以上の学生が、ビジネス、デザイン、観光、ホスピタリティー、医療、工学等の分野を学んでいる。芸術文化学部と交流を行うのはデザイン学部で、Visual Communication、Interior Architecture Design、Industrial and Brand Design、Experience and Service Designという研究分野で学部教育が構成されている*1。

またラハティ応用科学大学は2018年の夏に、これまで分散されていた各専門のキャンパスを1か所にまとめ、より戦略的な教育を目指し新たなキャンパスに移った。そのキャンパスは、ラハティ市を代表する企業の一つであるISKUと建物を共有する構成で、積極的に社会に働きかける大学の姿勢を示している。巨大な建物の中心エリアに一般の人でも利用可能なレストランを配置し、そのレストランを囲むように大学教育エリアと企業エリアが配置されている。屋内にいることを感じさせない巨大な建物である（写真1）。

その新しいキャンパスのエントランスに設置されたギャラリースペースで、最初の展覧会として芸術文化学部の交流展を実施した。

2. 交流展2019

2018年度に開催した交流展の概要は表1、展示物の概要は表2の通りである。

オープニングセレモニーには、ラハティポリテクニク時代にお世話になった退官されている教員や、芸術文化学部に交換留学をした卒業生等も多く集まった。そして

デザイン学部長Essi Pullinenから、長年継続している交換留学や交流展の趣旨等が、来場者に向けて説明された。

また交流展開催準備には、Photography Programの教員Anu Akkanenと、Aleksi Tikkalaの多くの協力を得た。ここでお礼を申し上げたい。

3. その他（特別講義、今後の計画）

展示開催に合わせて、ジュエリーデザインを学ぶ学生向けとして、特別講義とワークショップを行った。講師：ペルトネン純子、特別講義「明治期の彫金家・海野勝珉作品」、ワークショップ「日本の金属工芸技法・木目金制作」として行った。この特別講義は、事前に決めていたわけではなかったため、短い時間での実施となった。しかしジュエリーデザインの教員Kuikkaによると、「彼らの知らない金属加工方法があることを気付かせたことに意味があり、その気付きによって意欲的な姿勢を示す学生が出たのは、大変良いことだった。」という感想を述べて頂いた。

今後の計画として、デザイン学部長Essi Pullinenと話し合ってきたことは次の通りである。

- ・ラハティ大学デザイン学部で素材を実際に加工する授業がほとんど無いため、実際の加工を学びたい者の富山大学への交換留学を促進させる。
- ・富山大学芸術文化学部で多国籍の学生等とグローバルに学ぶ機会が得にくいため、そうした学びを求める者へラハティ大学への交換留学を促進させる。
- ・交流展の開催方法について、よりよい方向に展開できるように引き続き相互に検討する。

参考

*1 <https://www.lamk.fi/en>

表1 交流展概要

項目	概要
日付	2月5日(火)～2月28日(木)
場所	ラハティ応用科学大学、 Mukkulankatu 19, Lahti
オープニング セレモニー	日付:2月5日(火) 場所:キャンパス内ギャラリー 参加者:学生と教員を含めて約50名
展示物	表2を参照

表2 交流展展示物リスト

作者名	題名
重田 郁美	リメンバーミー
中西 愛美	Bon appetite!
前田 隆将	VISION AGRILIFE
小泉 巧	紙胎椰子蟹立像 阿吽 —紙を用いた漆造形の研究・制作—
河村 郁	「人生の選択」をテーマとした漫画制作 —夢見る少女は本音が言えない—
佐藤 弘隆 岩滝 陸王	移動アバター会議
福井 美瑛	知と地の巡環 —メガフロートの保小中 —貫校で沖島を活性化する—
長野 大地	片道切符の夢
森田 哲平	Universitas
芸術プロジェクト	Art Project 「アートはまちをすくわない?」
	国際交流プロジェクト 「パタナシン芸術大学との交流展」
	「文化財修理に関する講演会」
	「リノベーション演習B」



写真1 ラハティ大学の廊下。休憩やミーティングだけでなく、様々な活動を行えるようになっている。

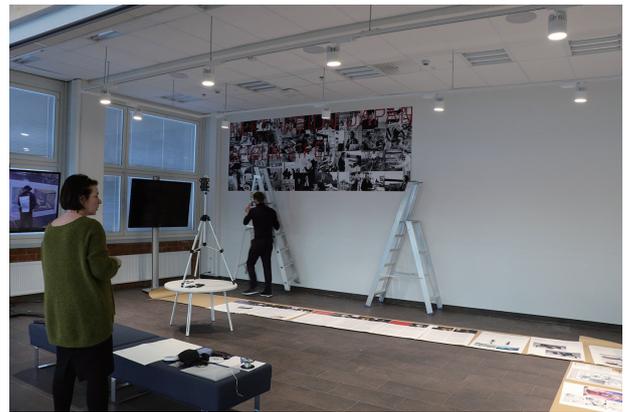


写真2 交流展の準備中。左側にいるのがAnu先生、壁際で作業をしているのがAleksi先生。



写真3 交流展のオープニングの様子。エントランスにあるギャラリーのため、通りかかった人が気軽に鑑賞できるスペースになっている。



写真4 ジュエリー制作の作業エリア。